

2017年8月24日

2017 年上期の回顧と下期の展望

回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は

繊維部会

ユニチカブラジル

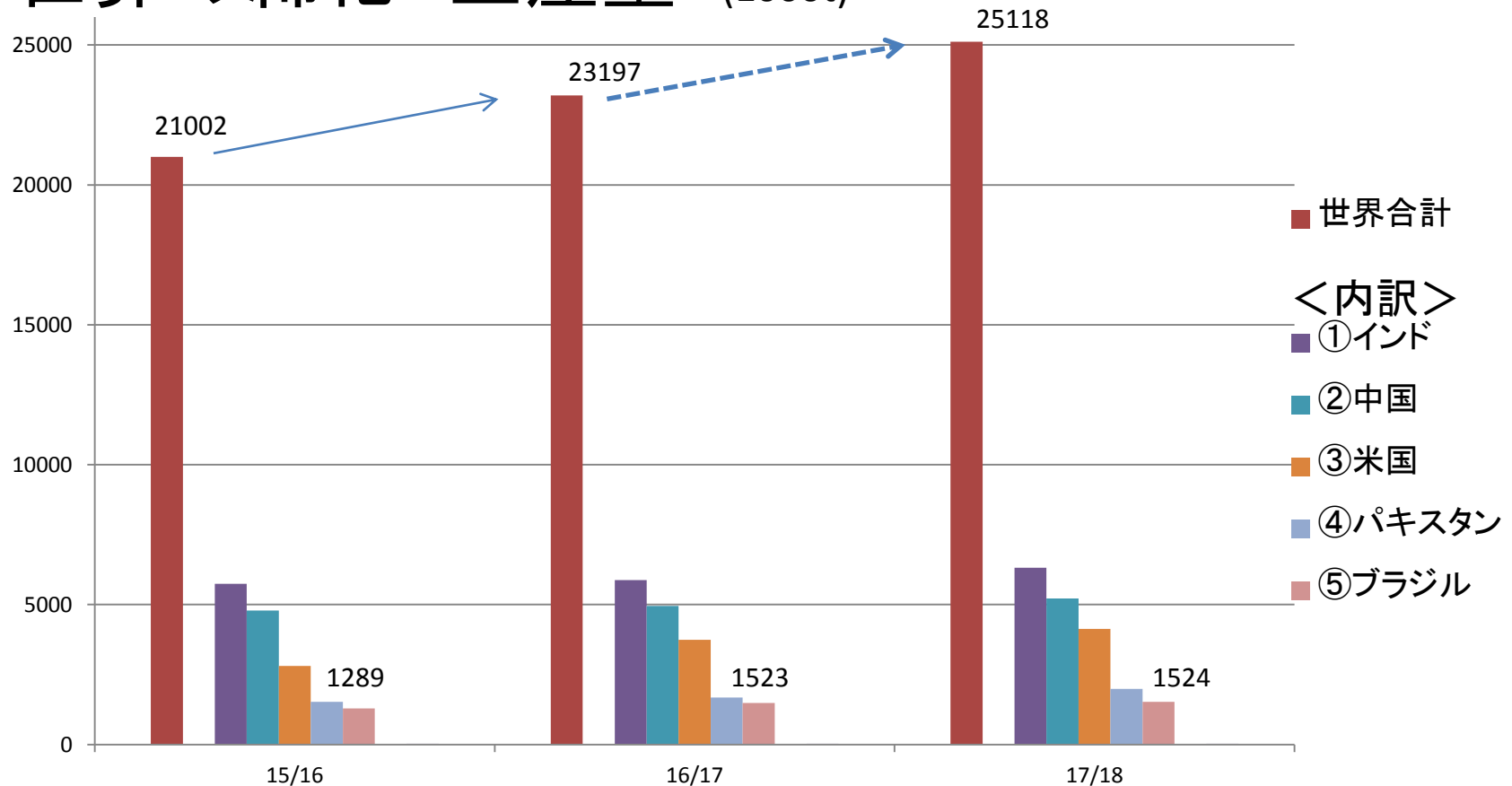
豊田明生

原料(綿花)



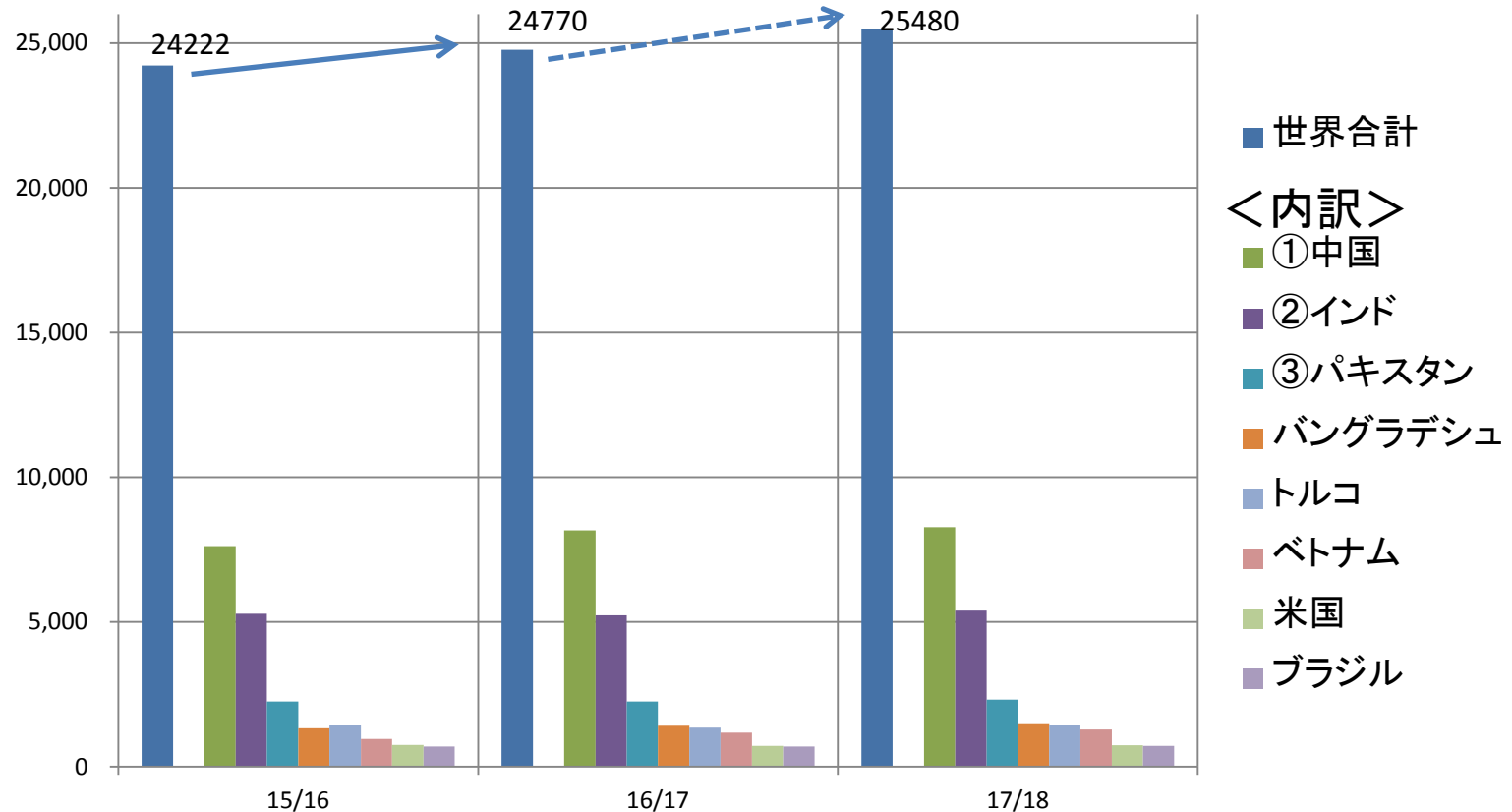
ブラジル マットグロソ州

世界の綿花 生産量 (1000t)



綿花生産①インド②中国③米国④パキスタン⑤ブラジル
順位は不動。全て安定的に増加中。

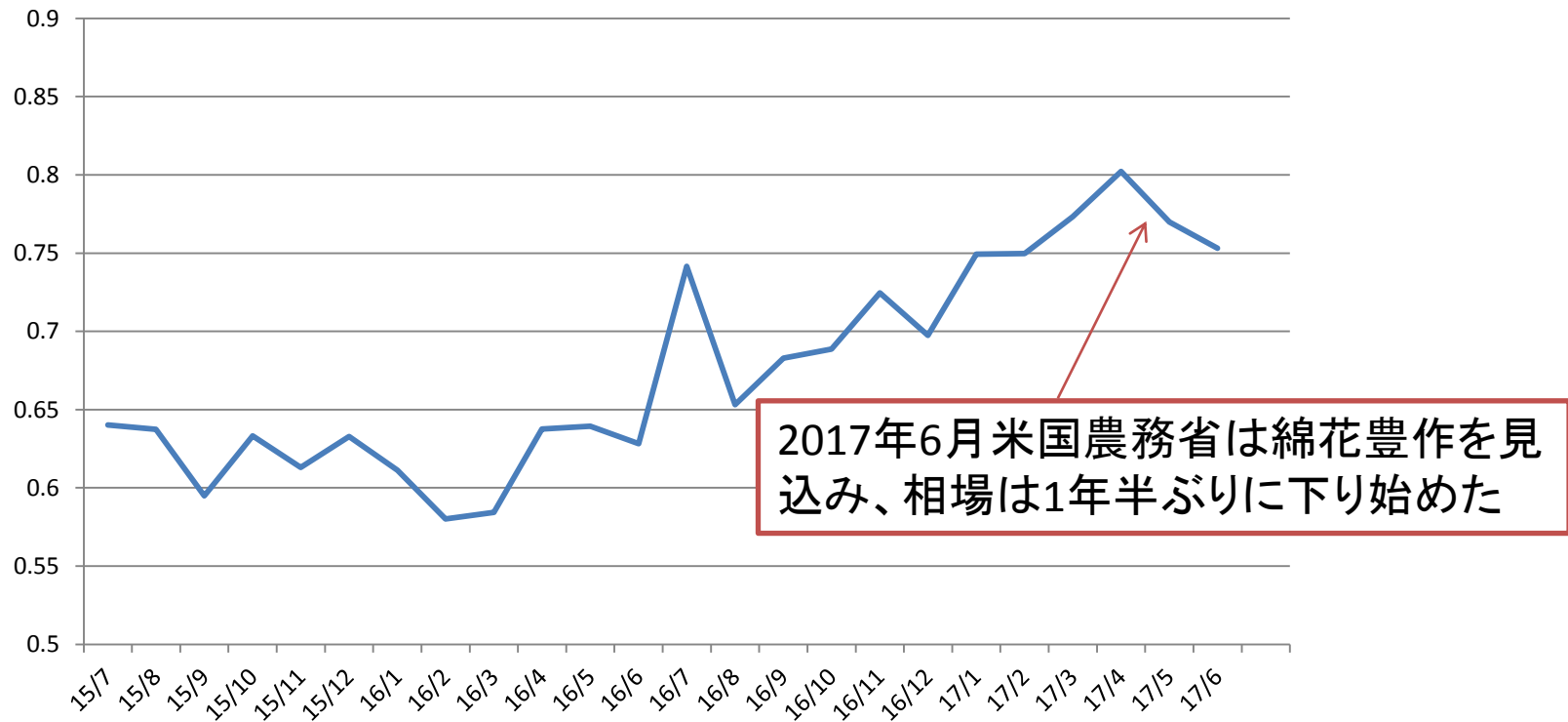
世界の綿花 消費量≒糸生産量 (1000t)



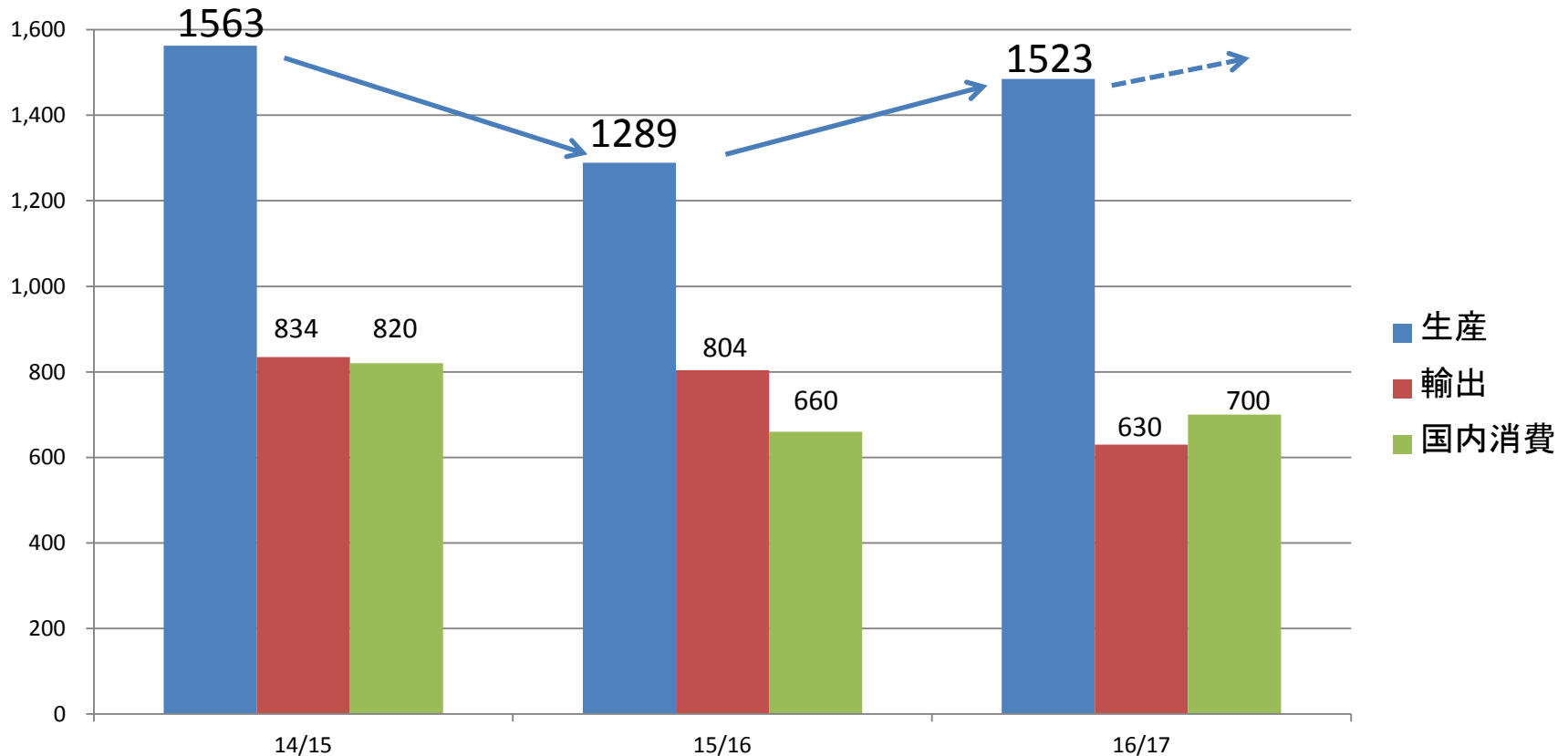
①中国②インド③パキスタン。

綿花生産のないバングラデッシュ、ベトナムが近年急増。(繊維加工基地化)

<NY定期相場> 綿花価格は上昇続いた(US\$/Lb)

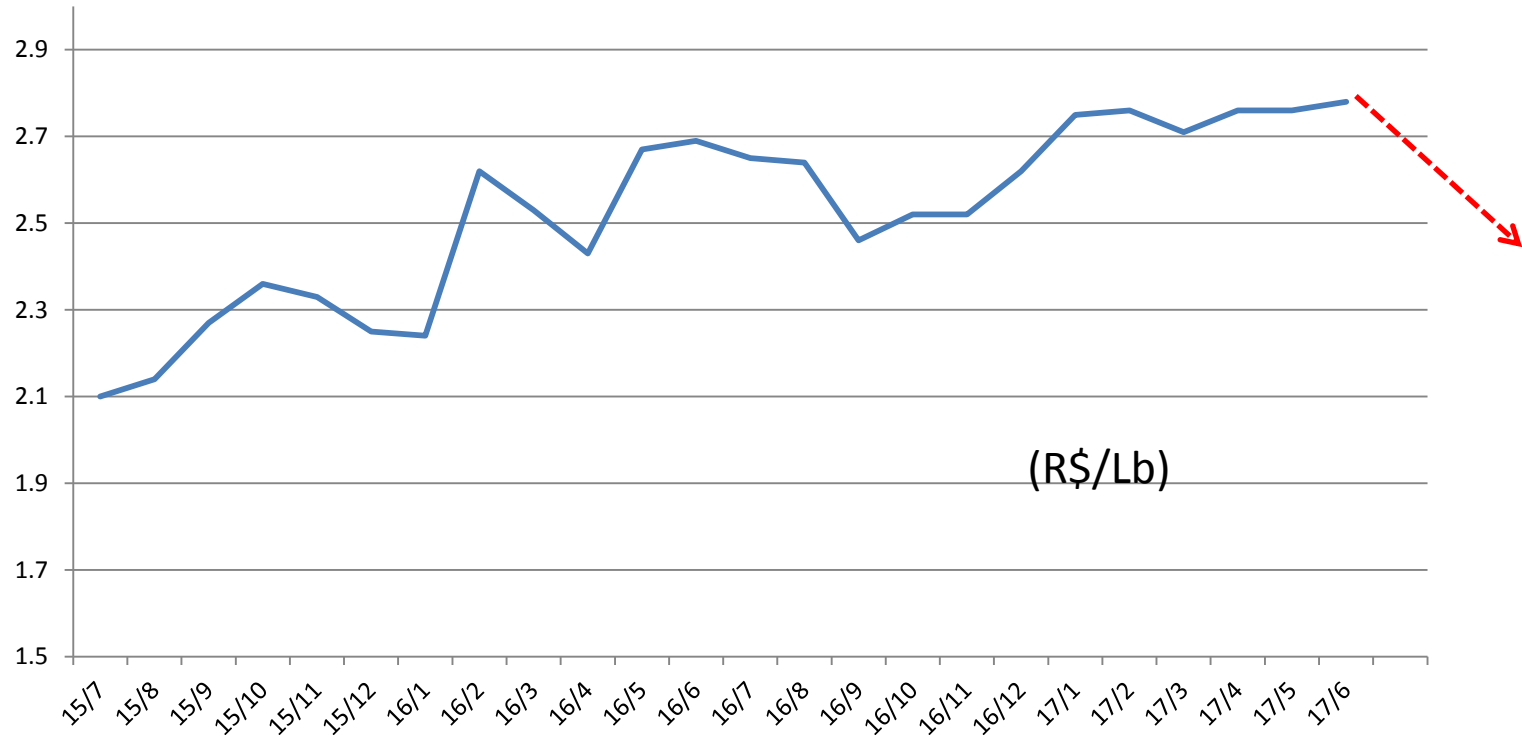


＜ブラジル国内＞綿花生産・輸出・国内消費(1000t)



2016年は生産減少、輸出は減少せず国内向け綿花は供給不足に。
2017年は生産回復、レアル高で輸出減少で国内消費向け増加の見込み。

ブラジル国内原綿価格相場推移 (R\$/Lb)

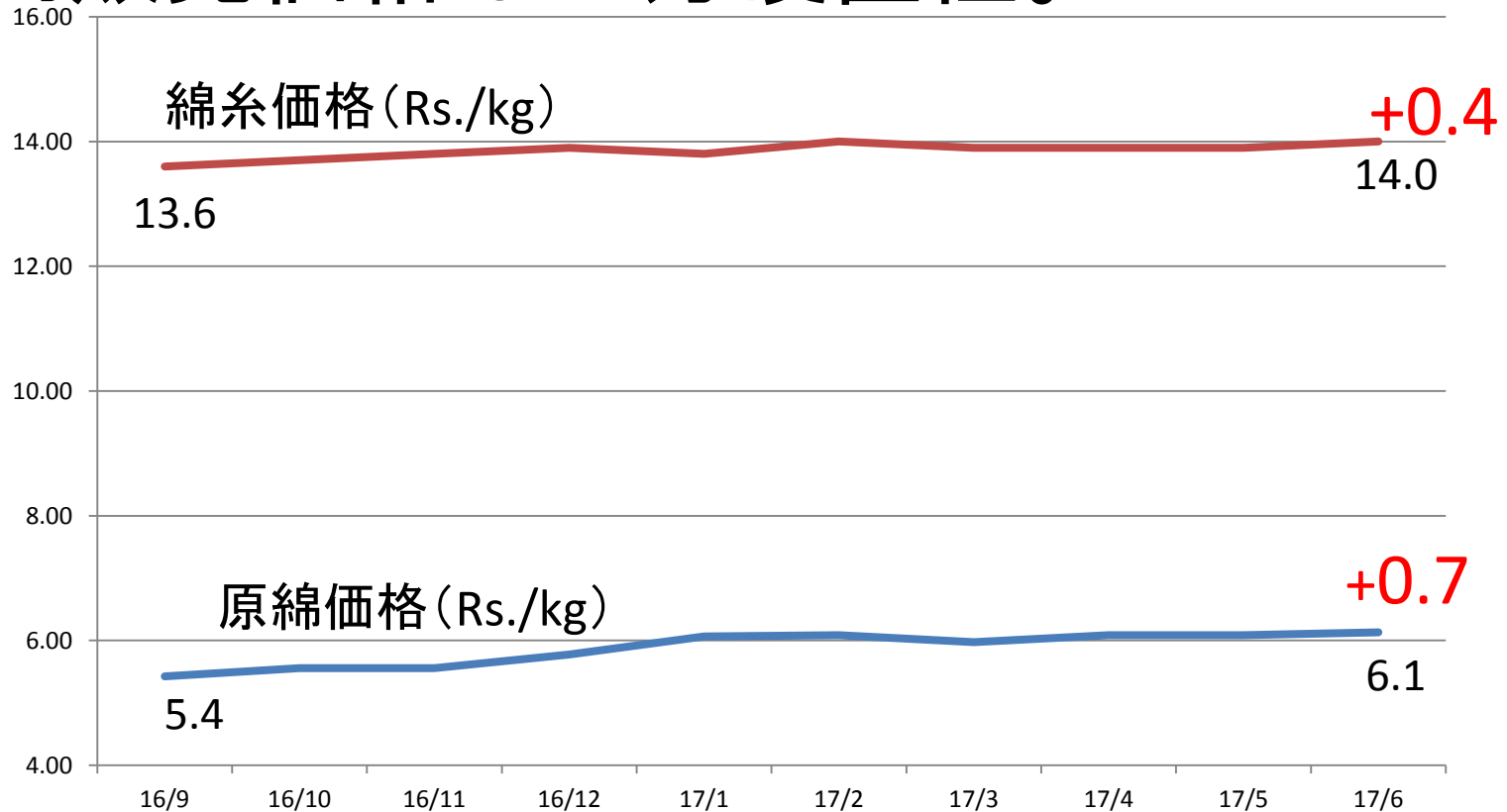


16年は不作及び輸出志向で国内で供給不足。よって年初頭から高留まり。
17年7月から1年半ぶりに適正化へ向かいつつある。

製品(綿糸)

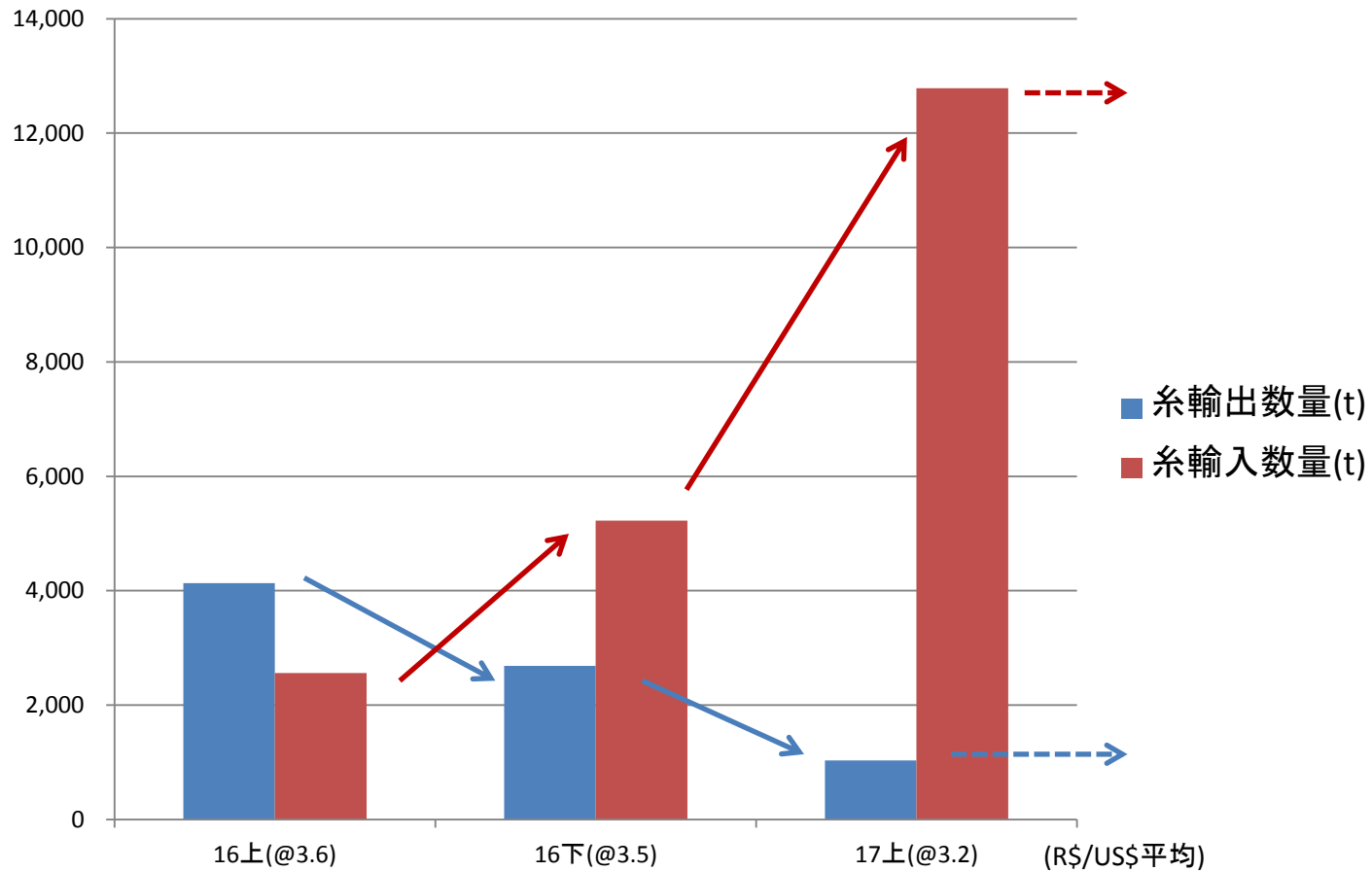


国内販売価格は上方硬直性。



17上期一杯原綿価格は高止まり。不況・輸入競合で糸値に転嫁しきれず。

綿糸輸入は増加中。17下も同様か。

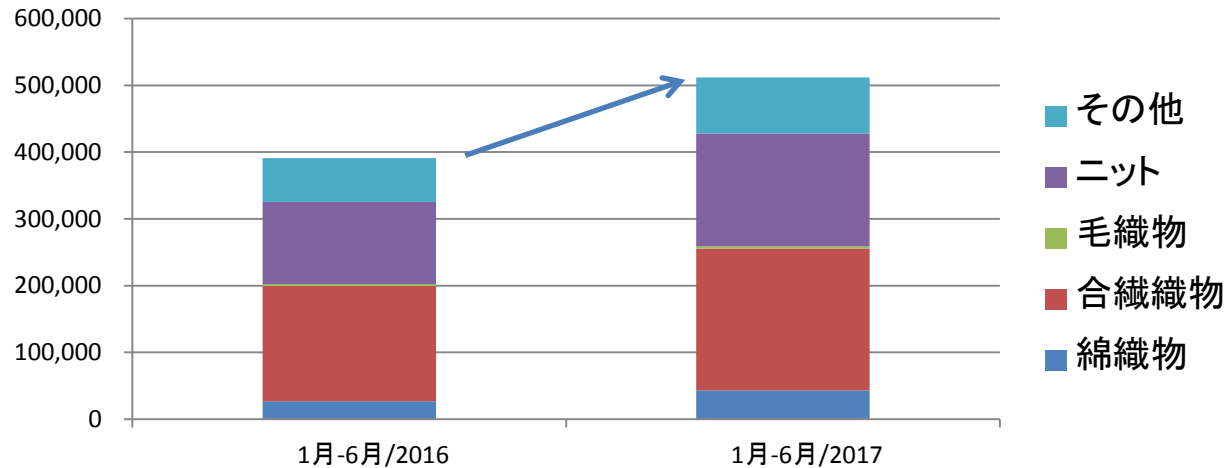


16下、17上共リアル高で、輸出減、輸入増。17下は17上並か。

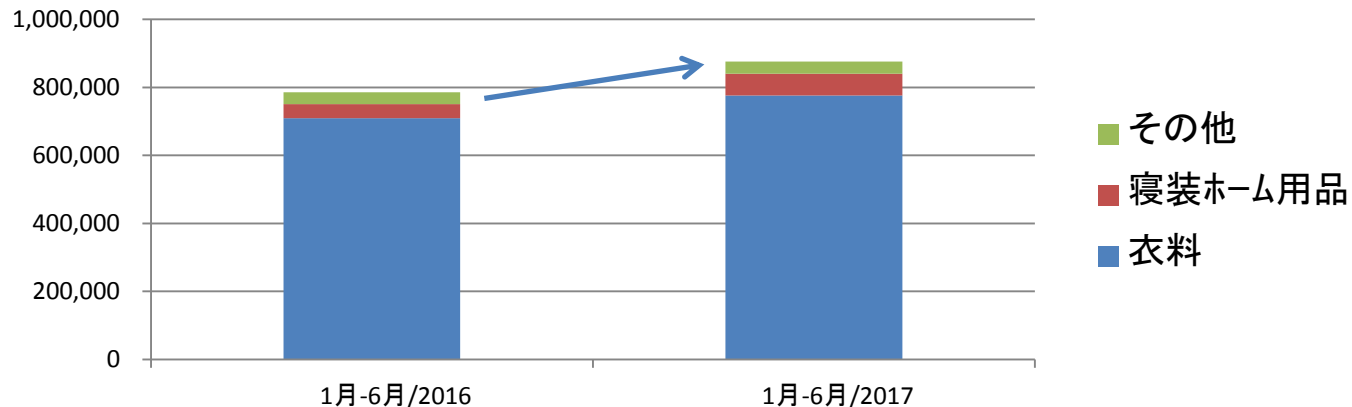
製品(生地・衣料品・用品)



生地輸入も増加中(千USD)



衣料製品輸入も増加中(千USD)



織編物、衣料製品ともに前年同期比、全アイテムで輸入増加、国内産業を圧迫

ブラジル繊維産業

- ① 原料(綿花)を国内で調達でき、
- ② 産業全段階を国内に備え、
(繊維産業150万人は資源転換業態中では食品・飲料に次ぐ規模)
- ③ 2億人消費市場を持つ



恵まれた経済構造

よって1955～日系紡績の進出(60年余の歴史あり)

それなのに・・・

原料(綿花)輸出 + 製品輸入の「中抜き構造」が進む

<ブラジル現状>

→長期的視野で産業を育成できず
コツコツ作るより安価な調達が優先
(国際競争力で劣るコスト、研究開発力)

<労働者の思惑>

→地道に働くより安易な所得。保護政策の悪用。
(労働訴訟、社会保険、補助金への依存)

* 2016年日系紡績6社中、3社が繊維事業撤退。

- 早期の市場回復を願う
- 早期の制度改革を願う
- 可能な自助努力を続ける

いま打つべき戦略

- ・高機能製品での市場開拓
- ・差別化志向メーカーに付加価値品を提案
- ・輸入対抗として有力小売店との一体取組、国産品購買キャンペーン
- ・信頼できる現地パートナーの探索
- ・環境配慮綿製品キャンペーン(Better Cotton Initiative)への参画
- ・日系の強みである、顧客フォロー、正確なデリバリー、品質安定
- ・ブラジル法制に対応する体制構築
- ・継続的コスト削減

2017/8 繊維部会



ユニチカ初代マスコットガール風吹ジュン1974

MUITO OBRIGADO